かせやまの森創造社

発行日 2024年3月15日
連絡先
kaseyama.sozo01@gmail.com
編集・本文・写真 中村伸之
表紙イラスト 松本 藍
協力 鹿背山竹ネット、山城ごはん

このプロジェクトは公益財団法人イオン環境財団、京都府地域交響プロジェクトのご支援で実施しています。

千年の里山をつくろう
森づくりハンドブック

かせやまの森創造社

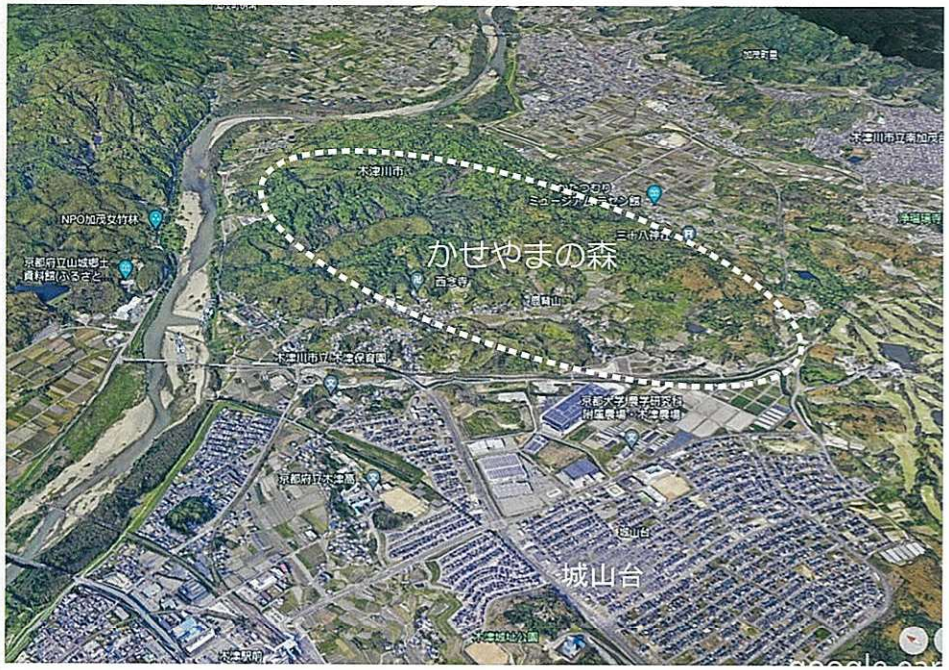
この冊子の目的

かせやまの森の整備や管理をする人たちが、現場で作業をしたり、作業計画を考えたりする時に、森全体からその場その場のありかたを見直し、森の将来を見定めるための指針となるように、この冊子をつくりました。

木津川市や活動団体の人々が集まって、2024年３月に「みもろつく鹿背山再生プラン※」を作りました。この冊子ではその一部を紹介します。

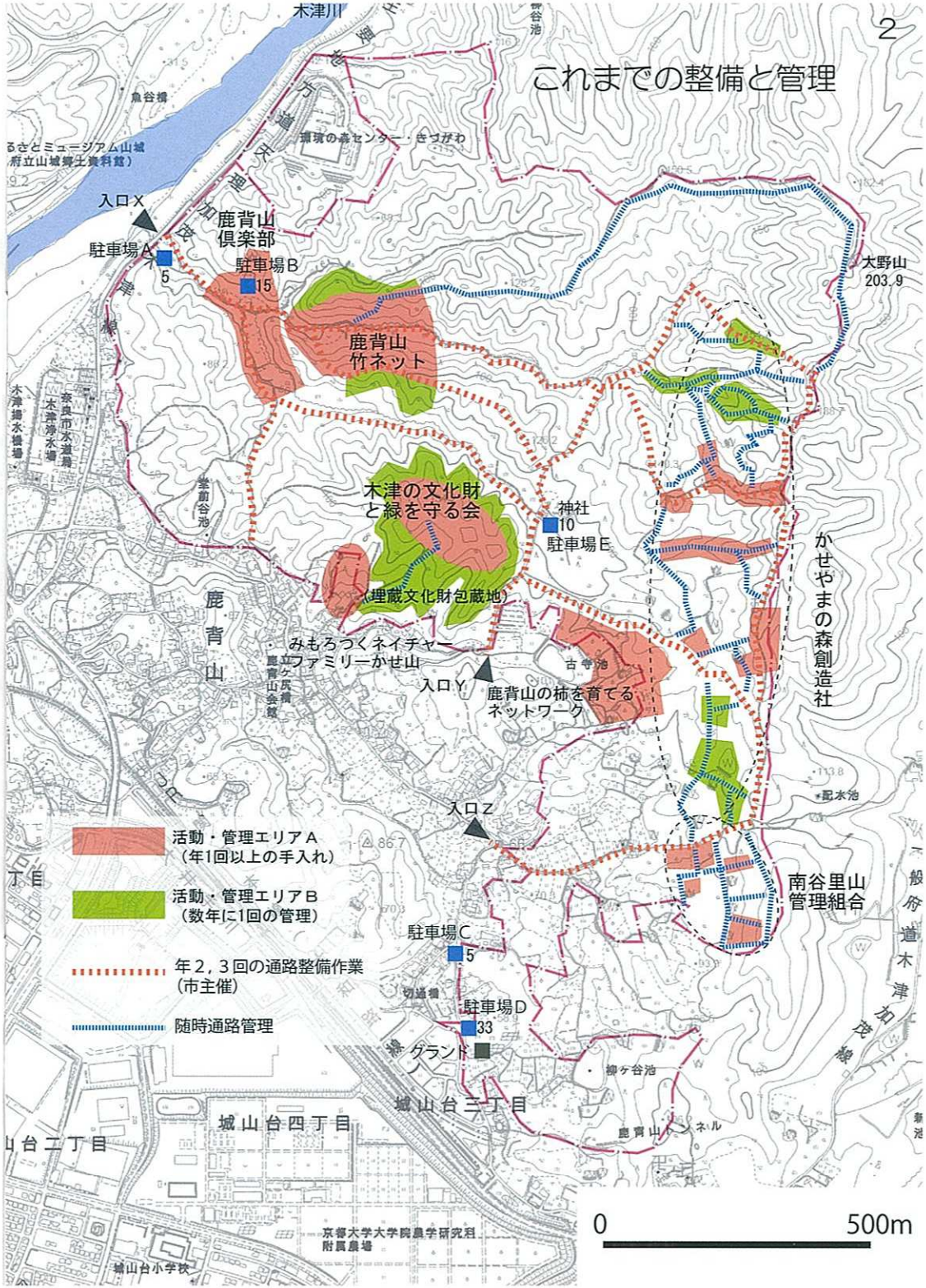
かせやまの森では2005年頃から活動団体が棚田の復活や間伐など里山再生を始めました。区域の面積は147ヘクタールです。右の図はこれまで整備と管理をした場所です。

※「みもろつく鹿背山再生プラン」の正式名称は「第２次木津川市地域連携保全活動計画」で、計画期間は2024年度から2033年度までです。
木津川市やかせやまの森創造社のサイトに掲載される予定です。



木津川やニュータウン・城山台に囲まれたかせやまの森（google earth）

これまでの整備と管理



これからの整備と管理

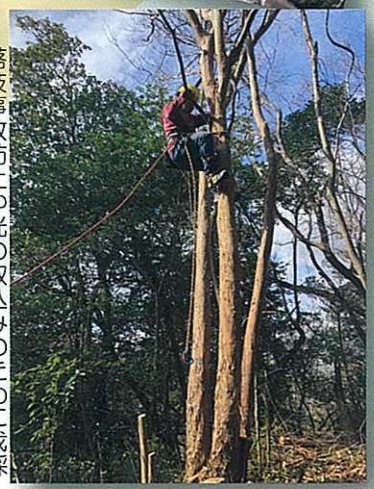
各活動団体がこれまでの整備と管理を持続し、生物多様性を豊かにする環境を広げてゆくことが求められます。オオタカなどが飛翔できる空間、カエルやトンボが棲む湿地、哺乳類や鳥類の水飲み場、里山を浸食する竹の伐採で「生きものの谷」をつくります。

高木を伐採して見晴らしを開く

尾根筋に通路をつくりネットワークする

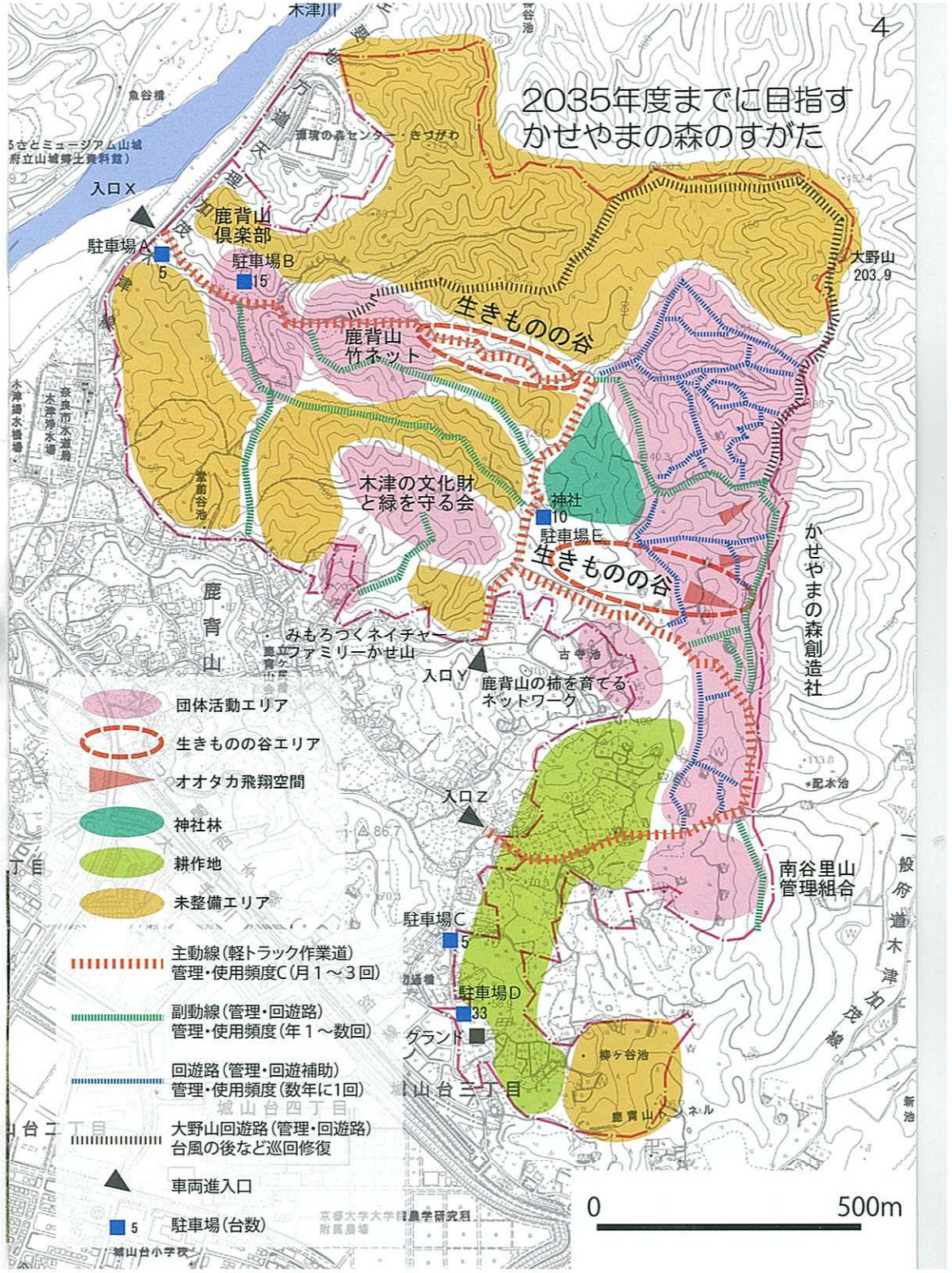
中切川は野生動物の水飲み場

落枝事故防止や光の取込みのために伐採



密になった竹林を伐採し見通しを開く

2035年度までに目指すかせやまの森のすがた

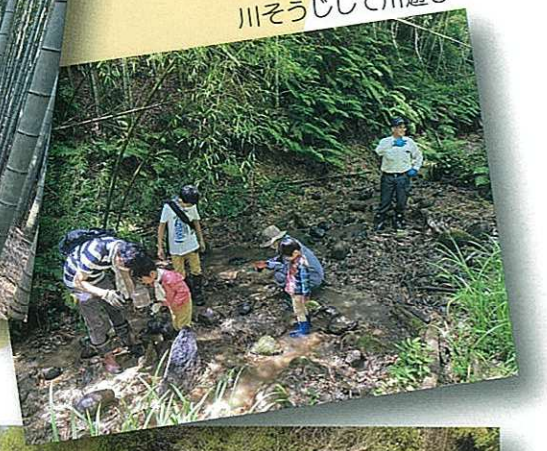


山谷里川シンボルゾーン

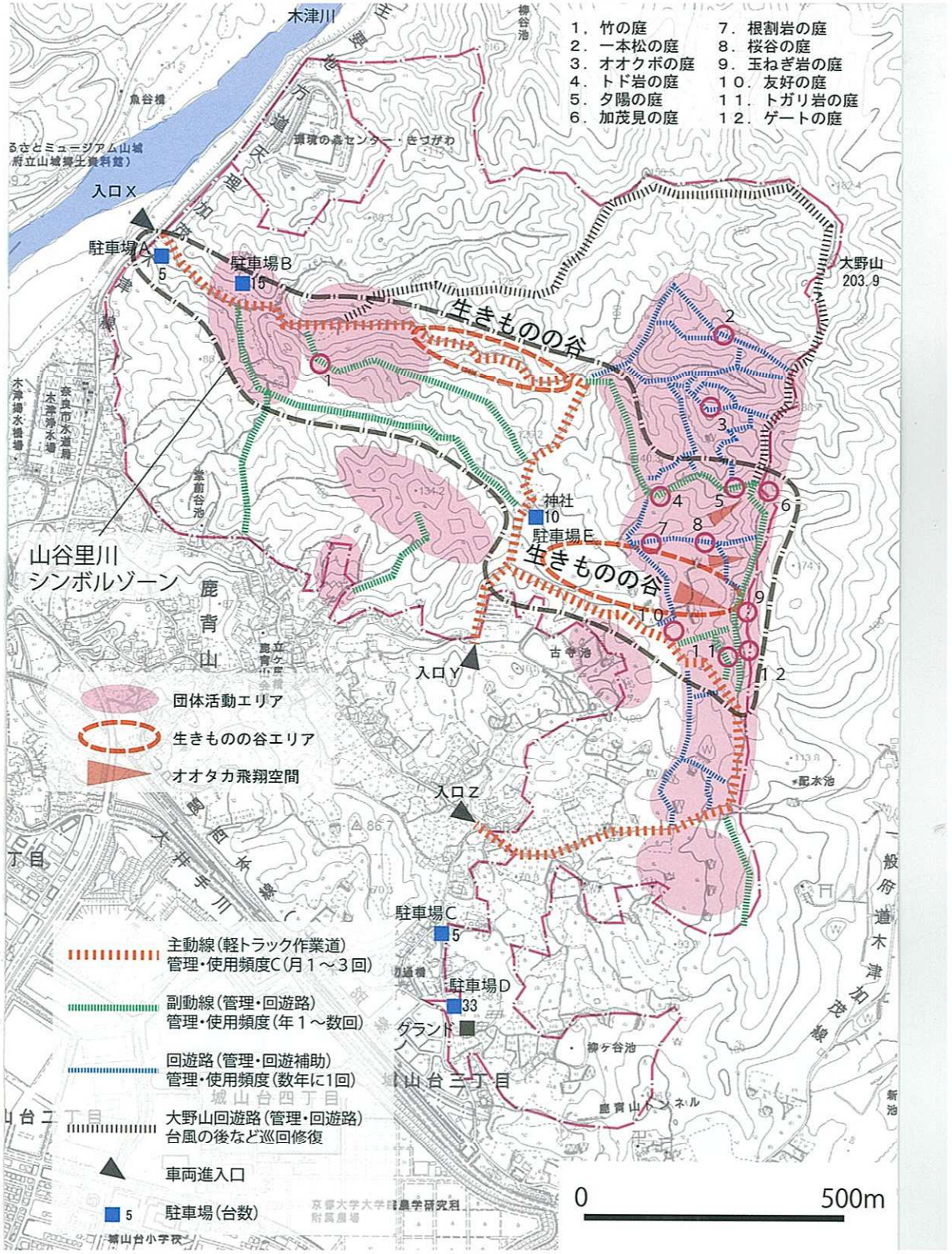
活動団体や地域住民の山歩きルートで、年1回以上の草刈り・通路整備を行なっています。このゾーンは山から川に至る地形・植生の変化があり、生駒山への眺望やヤマザクラなど季節の花々を楽しむことができ、「ふるさと原風景」が実感できます。また、特色ある岩や樹木を生かした「里庭」をめぐることもできます。

竹林を切り開いて尾根道をつくる

川そうじして川遊び



広い谷間に活動拠点となる広場をつくる



かせやまの森づくりマップ
「十二の里庭めぐり」

かつての山道を復活させて回遊路をつくりました。
すると眺望のいい広場、不思議な形の岩、ヤマザクラの森などの特色のある名所が生まれました。
これから時間をかけて、里山の風景を楽しむ「里庭」にする手入れを進めてゆきます。
ここで提唱した名称はたたき台です。皆さんのご意見をいただき、よりふさわしく改訂したいと思います。

このマップにふくまれたルートは毎年手入れするものから数年に一度の手入れになるものまであります。
常に歩ける状態ではありませんので、活動団体が主催する山歩きイベントにご参加ください。

一本松の庭

トド岩の庭

根割岩の庭

竹の庭

ゲートの庭

トガリ岩の庭

桜谷の庭

友好の庭

竹ネット
竹の庭
中切川
鹿背山倶楽部

里庭めぐり山あるき

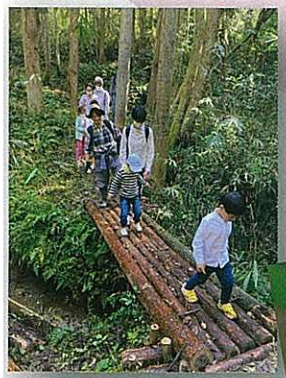
地形、植生、遠い眺め、雨・風・陽の動き、土地に刻まれた歴史。その組合せで人をひきつける場が生まれます。そんな里山の魅力ある風景を見つけて「里庭」と名づけ、手入れしています。里庭めぐりで四季それぞれの花や生きものの痕跡に出会い、山歩きがより楽しくなります。

ヤマザクラが咲く「桜谷の庭」

鹿背山不動の名所絵（江戸時代）

鮮やかな花咲くミツバツツジ

手作りの橋を渡る



リスがかじった松ぼっくりは
エビフライに似ている

ガマズミの白い花

竹の階段

見晴らしのいい柿畑

よく手入れされた竹林

むかしむかしのお地蔵さん

イノシシが泥で体をこすった跡

根割岩の庭

ゲートの庭

夕陽の庭

トガリ岩の庭

生きものの場づくり

湿地・草地の復活：かつての棚田は土砂が積もって草地になってます。池を掘って水面を復活させてカエルなどの両生類やトンボなどの昆虫の生息地（池・湿地）を復元します。また、鳥類や小型哺乳類のすみかとなる草地や笹薮も守ります。

ギャップの形成：枝葉が茂りすぎた林の中に日当たりのいい小さな伐採地をつくります。下層の植物や動物の活動が活発になり、いろんな生きものがやってきます。

森林からの蒸散：森林の成長が雨水の蒸発散を増加させます。湿地環境の維持のためには適度な伐採が必要です。土砂崩れ防止のためにも伐採が必要です。

地上の小動物をねらう
オオタカ

トノサマガエルが戻ってきた

棚田跡に池を掘る

ヌマガエルも戻ってきた

埋土種子からミズオオバコが
開花した

トンボが産卵して
ヤゴが生まれた

森の中にギャップをつくる

棚田跡を掘ると雨水がたまる。冬に涸れてもまたたまる。

伐採地にエサを探しに来た
ルリビタキ

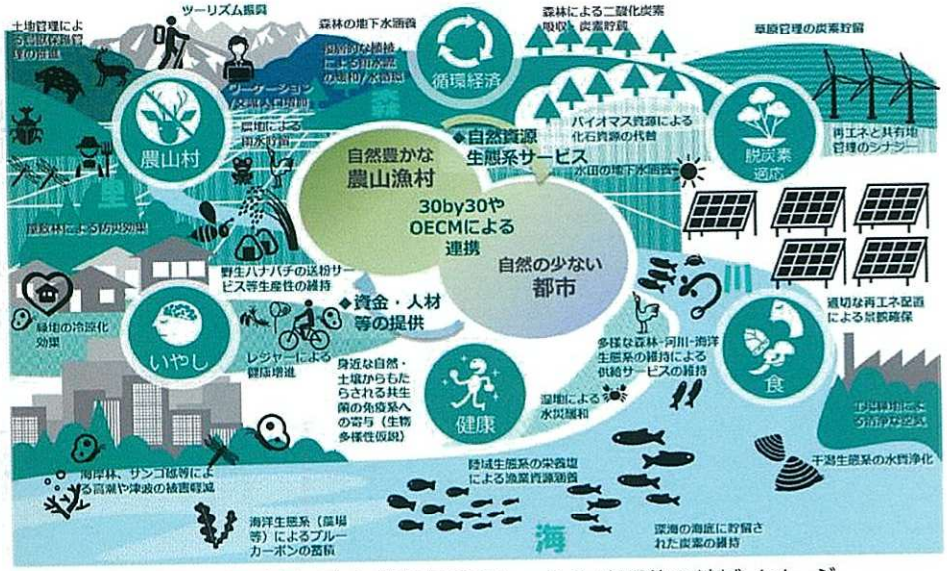
かせやまの森は自然共生サイトを目指します

２０２２年１２月、生物多様性条約第１５回締約国会議（ＣＯＰ１５）で「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。

３０ｂｙ３０（サーティ・バイ・サーティ）とはその中の、２０３０年までに地球の陸域の３０％、海域の３０％の保全・保護を目指す国際目標です。これは、生物多様性の損失を止め、人と自然の結びつきを取り戻すためには、自然が適切に保全されている場所を一定面積以上維持する事が大切だという考え方に基づいています。

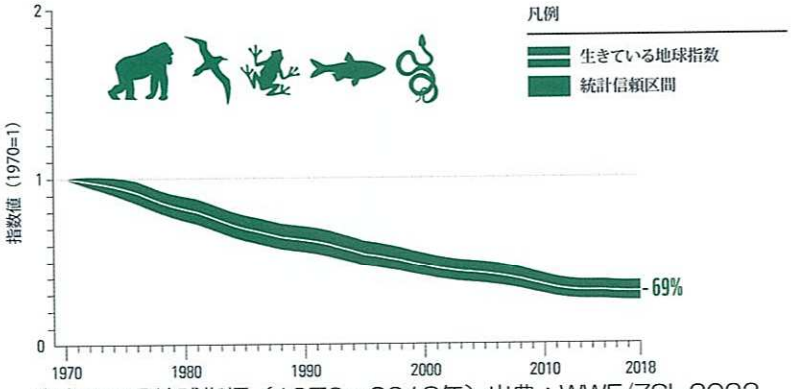
日本では今後は既存の保護地域の拡張のほか、地方公共団体、民間団体、企業などが所有あるいは管理する土地を「自然共生サイト」に認定し、国際的なデータベースに登録することで目標達成を目指しています。

私たちは、かせやまの森が自然共生サイトに認定されることを目指しています。

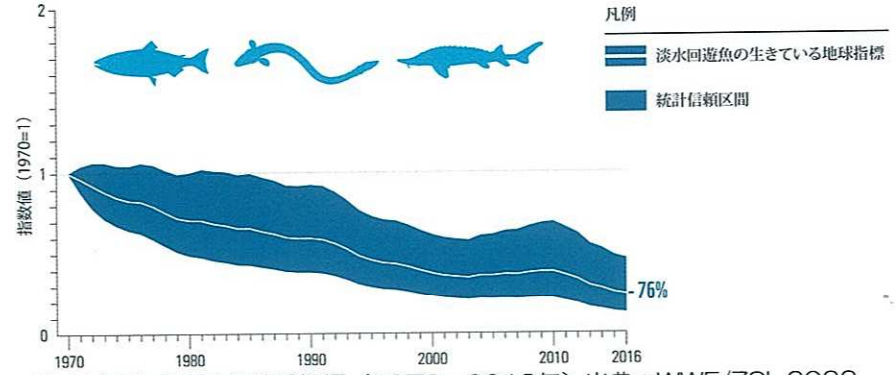


健全な生態系の下で、自然の恵み豊かな３０ｂｙ３０ 実現後の地域イメージ
（出典：環境省 ３０ｂｙ３０目標が目指すもの）

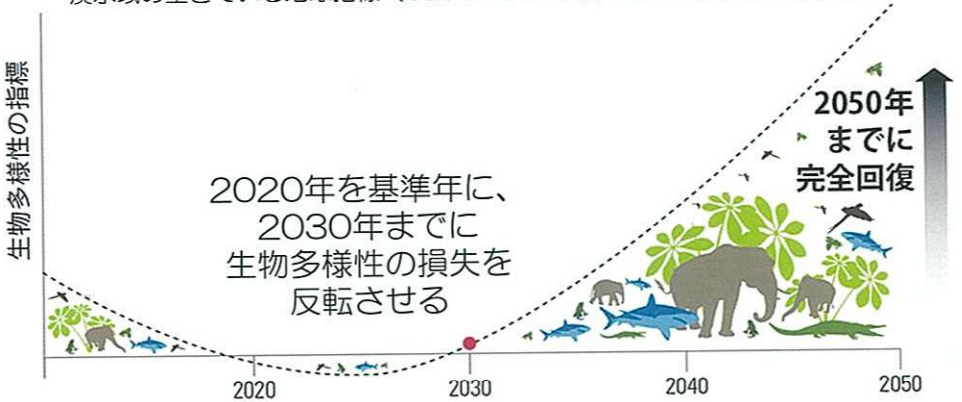
この50年間で地球の生きものは大きく減少しましたが・・・・



生きている地球指標（1970～2018年）出典：WWF/ZSL,2022



淡水域の生きている地球指標（1970～2018年）出典：WWF/ZSL,2022



2030年までのネイチャー・ポジティブに向けた自然のための測定可能な世界目標
出典：Locke et al, 2021